

## 【留学体験記】 白杵里恵

所属 大阪大学医学系研究科

留学期間 2017年2月

留学先での所属 延世大学校

### 1. 留学プログラムの内容

・延世大学校公衆衛生大学院 Prof. Hyeon Chang Kim 研究室において行われる3つのコホート研究 Cardiovascular and Metabolic Disease Etiology Center (CMERC study), Jangseong Hight School Study (JHSH), The Korean social life, health and aging project-health Examination Survey (NHANES)について、共同研究の可能性を探りながら情報交換やフィールド見学を行った。

・延世大学校医学部公衆衛生学院において、講義、プレゼン発表、ディスカッション、施設見学を行った。

・National Cancer Center にて、「National Cancer Control Program in Korea」、「Cancer Burden in Korea Cancer Registration」、「Cancer Prevention Smoking Cessation Program」、「Hospice, Palliative Care」、「Cancer Early Detection」、「Cancer Information Center」のレクチャーを受けた。

・大阪大学公衆衛生学教室で現在行っているコホート研究(JPHC-NEXT、CIRCS 研究)のプロトコル及びその成果についてプレゼンを行い、研究や、生活習慣病対策についてディスカッションを行った。

・prof. Il Sun (Cardiovascular disease, Nutritional epidemiology, Genetic epidemiology)、prof. Sun Ha Jee、prof. Changsoo Kim (Environmental Medicine/Clinical epidemiology)との面談を行い、研究について情報交換を行った。

・Korean Society of Cardiometabolic Syndrome 2017 Annual Scientific Session へ参加した。

・週2回2時間韓国語習得のため、語学教室へ通学した。(bestfriend academy)

### 2. 学習成果

フィールド調査見学を2回行った Korea Health and Nutrition Examination Survey (NHANES)は、1995年より実施されている。調査の目的は、健康のリスクとなる要因の傾向と主な慢性疾患の有病率を把握し、韓国人の栄養状態や健康評価を行うことである。また、健康政策の構築や評価のための基礎データを提供し、韓国を代表する統計学的な健康栄養状態を把握するために行われている。具体的には、国民の健康計画の指標の確立と基本データの作成、健康リスクの行動の動向把握（喫煙、栄養摂取、飲酒、身体活動等）、主

要な慢性疾患の有病率の動向と管理状態の把握、生活の質や活動制限、障がいや疾病の医療記録の分析、他国と比較可能な健康指標の統計解析があげられる。対象者は、全国の192地域から多段階確率抽出された1歳以上の1万人である。調査方法は、スタッフは訓練を受けた医療関係者で行われ、対象者の自宅での調査：世帯情報等の調査を実施 Mobile Examination Centers (MECs)での調査 (Health Interview/Examination)：訓練された医師、各項目の測定員らによって実施 栄養調査：MECsでの調査から1週間後に、対象者の自宅で実施がある。主な調査項目は、Health Interview (世帯、個人)、Health Examination、栄養調査 (24時間思い出し法)である。KNHANESのデータは、オープンアクセスであり、広く研究に用いられ、国際比較も可能である。CMERC study、JHSH、KSHAPについても同様に、研究プロトコル、解析に用いられる変数、発表されている論文について学んだ。今後、共同研究も視野に入れ、研究テーマを見つけていきたいと思う。

### 3. 留学先での経験

日本の健康問題である生活習慣病は、韓国においても共通の課題であり、韓国と日本が協同して健康問題を解決する必要性を強く感じた。また、同世代の韓国大学校の学生と交流を行う中で、研究に対する姿勢に刺激を受けた。また、チャンスがあれば他大学にも留学に行きたいと考え、そのための英語の勉強を継続して行っていきたいと思う。

### 4. 今後の進路への影響について

同世代の研究者と交流する機会をいただき、とても刺激になった。今後の進路についても、広い視野を持ち続け、延世大学校とのグローバルなネットワークを活用して、日本だけでなくアジアでも活躍できる人材になりたいと考えるようになった。